

[TOP page](#)[資料室](#)[イベント情報](#)[講師を探す](#)[Worker's 広場](#)[関連リンク](#)

資料室


[HOME](#) | [資料室](#) | [労働者福祉・共済](#) | [教育カリキュラム](#) | [労働者自主福祉運動のすすめ（17）](#)
[労働組合](#)[労働者福祉・共済](#)[一般教養](#)[協同組合](#)[労福協](#)[労働金庫](#)[全労済](#)[県生協連](#)[勤労者信用基金協会](#)[年金福祉協会](#)[福祉基金協会](#)[ユニオントラベル](#)[教育カリキュラム](#)

労働者自主福祉運動のすすめ（17）

県労福協結成までの流れ

労福協結成第1回準備会←福対協再編
「労働4団体」と「事業4団体」による準備会が発足する 1963年10月

「地区労福協」結成（静岡地区労福協を皮切りに県下28地区で結成）
「労金地区懇談会」を「地区労福協」として結成していく。 1964年5～8月

「地域労福協」結成
地区労福協の連絡・調整機関として県下8地域で結成 1964年7月

「県労福協」結成（初代会長 木村愛一）
「県労福協」の結成を機に、未組織労働者への労金利用の道を開く 1964年11月

[🔍 キーワード検索はこちら](#)

中央では1949年8月「中央物対協」が結成され、翌50年9月に「中央福対協」に改編され、1957年には「労働者中央福祉協議会（後の中央労福協）」へと発展していきました。

生活物資不足に対応する組織から、労働者の福祉を総合的に推進する組織へと衣替えていったのです。

静岡県においても1953年12月、大阪・岐阜に次いで全国3番目の「県福祉対策協議会（準備会）」が結成されます。

静岡県との折衝により結成補助金として30万円の補助を受けて、自転車等の物資斡旋が行われ始めます。推測ではありますが、発足当初からこの「福対協」を「総合生協」として発展させていく計画だったと思われる。

準備会のまま物資斡旋事業を拡大していきますが、1957年11月「福対協組織改組の対策委員会」が開かれます。

そして同年12月、「県福対協」を発展的に解消して「静岡県労働者生活協同組合（労生協）」を結成しますが、県域単位では大きすぎるとして厚生省の認可を得られませんでした。

こうした経緯で「県福対協」は消えましたが、その物資斡旋の機能は東・中・西の3地域生協に移すとともに、運動体としての「県労福協」を設立しようと準備会を進めました。

しかし気運が熟せず、1959年は未結成に終わりました。

1960年代になると労金の活動が浸透し、さらに労済の設立により勤労者の相互扶助による共済事業も進められる中、労働運動の一環としての自主的な福祉事業が勤労者の生活の中に深く根付いてきました。

そして自主的な福祉活動の重要性が認識され、事業団体相互間の協力体制の確立と、福祉活動の拠点を設けること

てして自主的な福祉活動の重要性が認識され、事業団体相互間の協力体制の確立と、福祉活動の拠点を設けることが緊急かつ重要な課題であるという認識の一致をみて、1963年10月「労協結成準備会」が開かれます。

まずは「地区労協」を結成して、福祉活動の拠点づくりを提唱していくこととし、県内各地区で討議を開始しました。

1964年5月15日の「静岡地区労協」結成を皮切りにして、瞬く間に県内8地域・28地区労協が設立されます。

そして全地区の賛同を得て、1964年11月13日「県労協」が結成されます。

(つづく)

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録
お申し込みはこちらです。

>>一覧へ戻る

[▶ サイトマップ](#) [▶ このサイトについて](#) [▶ 個人情報保護の取組みについて](#)

[▶ ページTOPへ](#)

[TOP page](#)

[資料室](#)

[イベント情報](#)

[講師を探す](#)

[Worker's広場](#)

[関連リンク](#)

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.